

平成22年度 麻生区協働推進事業評価一覧表

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業目的及び内容	事業報告	実施主体・委託先	総合評価	今後の方向性
1 安全で快適に暮らすまちづくり事業										
1	継続	麻生区安全・安心まちづくり事業	990,000	990,000	地域振興課	麻生区民、地域団体、事業者、行政機関等との連絡と協働により、区民が安全で安心して暮らせるまちづくりを進めることを目的とし、次の事業を行う。①地域安全パトロールの実施及び推進に伴う実施組織への物品貸与、②安全・安心まちづくり旬間中の街頭啓発活動及び啓発物品の購入、③地域安全パトロール実施団体と各種行政機関の意見交換会、④各種研修会の実施による区民の防犯意識の高揚、⑤身近な地域安全情報を迅速かつ正確に発信することによる犯罪の未然防止、パトロールの推進、青色回転灯付パトロール車によるパトロールの実施及び導入の推進	地域安全情報の発信（メール配信システムの実施）により、区内の犯罪や防災に関する情報をいち早く地域に届け、地域安全パトロール活動等の速やかな実施に結びついている。また、パトロール用品（帽子・腕章・ベスト）の貸与を行なうことにより、パトロール実施組織数及び参加人数の増加等、区民防犯意識の高揚に成果を上げている。	麻生区安全・安心まちづくり協議会	行政単独ではカバーしきれない地域活動の実施及び活性化を推進するにあたり、本事業の協議会の役割がさらに重要になっている。また、多様化する犯罪に対し、緊急対応が可能な組織体系が構築されていることから、事業に対する成果は得られており、今後も支援していくことが必要である。	住民の防犯への感心は高く、より一層の関係機関の連携が求められている。メール配信システムの導入により情報発信の手段が整備されたが、新たな研修会・講習会の開催等、さらなる啓発を行なうことにより、安全で安心なまちづくりを推進していく。
2	継続	あさおガイドマップ増刷改訂事業	861,000	650,000	地域振興課	「麻生区ガイドマップ」の掲載情報を最新の情報に改訂し、人口増を考慮して増刷するとともに、転入してきた区民を中心に区役所窓口等で無料配布する。併せて、区ホームページの地図データを更新する。	増刷した15,000部は、1年間でほとんど在庫が無くなる状態であり、適正な部数が発行できている。	地域振興課(株)乙緩印刷社	区民にとって役立つ情報を提供できている。	次年度以降も、転入者に必要で知って欲しい情報を検討し発行していく。
3	継続	落書き消し事業	341,000	278,552	地域振興課	新百合ヶ丘駅周辺並びに百合ヶ丘駅及び柿生駅周辺等を中心とした落書き消しを実施し、駅周辺の美化と犯罪防止を目指す。また、町会・地区の要請による「出前落書き消し」を実施して落書き消しのノウハウを伝え、区内の美化と安全で安心なまちづくりを推進していく。	一斉落書き消しを実施し、開催地域の地元町会に落書き消しのノウハウを伝えることができた。また、地域の中学校と共同で作業を実施することで、中学生の地域貢献活動にも協力できた。	あさお落書き消し隊	市民活動団体が主体となり活動を行うことで、機動的に落書きを消すことができるとともに、地域と市民活動団体が協働することで、都市型コミュニティの形成にも寄与している。	市民活動団体の主体的な取組に留意しながら、本事業を通じて住民間の交流が発展するよう支援する。

2 幸せな暮らしをともに支えるまちづくり事業

1	継続	あさお福祉まつり	2,900,000	2,900,000	地域保健福祉課	区内で地域福祉活動に携わる当事者・ボランティア・施設などの活動を広く区民に周知するとともに、体験学習などを通じて、より具体的に福祉についての理解と関心を深めることを目的とする。区内のボランティア団体・当事者団体・各施設・福祉関係団体等が「来て！見て！つなごう福祉の輪」をテーマに、①演芸部門②ふれあい部門③にぎわい部門に分かれて開催する。	多数の区民が参加し、福祉に触れる場としての機能を果たしている。福祉関係団体、グループ等の参加は年々増加し、福祉関係団体の貴重な交流の場にもなっている。	麻生区社会福祉協議会	福祉制度や環境の変化、「地域のことは地域で」という流れの中で、区民と地域福祉を結びつける機会を与える貴重な場となっている。	より幅広い区民に対し働きかけを行い、福祉のまちづくりを推進する象徴的な事業になるよう改善、見直しを図る。
2	継続	ウォーキングマップ活用健康づくり推進事業	1,798,000	1,494,279	地域保健福祉課	歩行習慣のない区民を対象に、より身近な地域でウォーキングが開始できるよう支援し、広くウォーキングの普及を図ることによって、生活習慣病の予防及び介護予防を図る。①体験ウォークの企画・実施、②公園de健康づくり事業の企画・実施、③ウォーキングコース案内板の設置	体験ウォークでは、毎回参加者が8割を超え、初参加も3割以上あり多くの人にアプローチできた。また、公園の定例ウォーキングでは、ウォーキングの習慣化、閉じこもり予防にもつながった。さらにウォーキングコースの一部でマップだけでは分かりにくい箇所などに、道標となる案内板を設置し、さらなるウォーキングマップの普及とそれらを利用した健康づくりにつながった。	麻生区ウォーキング推進実行委員会	ほぼ計画通りに事業を展開することができた。	今後も区民の健康づくりのためのウォーキングを普及するために、何が必要かを検討し、今までの活動を検証するとともに、ボランティアの育成やウォーキングに関連した講演会の開催など、引き続き区民と協働して、より効率的な事業執行を目指していく。
3	継続	小地域のつながりネット支援事業	1,157,000	747,726	地域保健福祉課	あさお福祉計画の実施に伴い、区民による自助、共助の取組を支援する。世代や従来の活動領域を超えたつながりづくりを進め、人と人とのネットワークにより、身近な生活課題を解決することを目的とする。①公募による地域福祉活動の委託、②区内関係機関と連携して開催する地域懇談会	公募による委託の成果は次のとおりである。①高齢者等の閉じこもり予防を目的に福祉施設、団体関係者、ボランティアの連携・協働による新しい移送の仕組みづくりの検討。フォーラムを開催して移送支援実践活動への参加を呼びかけた。②障害のある方の日中活動センターである地域活動支援センターが中心になり、防災をテーマに学習会やイベントを開催して、障害者や地域住民との交流を図った。③区内にある障害者福祉施設・事業所見学ミニバスツアーを継続実施し、地域福祉に関心のある市民が障害のある人の日中活動の場を訪れ、交流を図った。地域懇談会については、関係機関との調整がつかず実施できなかったが、平成23年度実施に向けての検討を行った。	地域保健福祉課、提案団体	公募事業はそれぞれ結果を残すよい取組となった。3年継続した事業は終了となるが、委託事業を終了後も各々の団体での事業継続が決まっており、地域のつながりづくりに大きく貢献すると考えられる。地域懇談会については、平成23年度実施に向けての検討のみとなったが、地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携し検討したことを次年度実施につなげていく。	公募による委託事業については、委託を終えたものも区民主体の取組として継続発展するよう、側面支援する必要がある。地域懇談会は関係機関との連携を密にし、実施していく。
4	新規	高齢者見守りネットワーク事業	1,025,000	946,622	高齢者支援課	自分から相談できない、家族がいない等、生活の維持が困難になっている高齢者を協力事業者が発見することにより、支援につなげ住み慣れた地域での生活ができるように見守る。さらに、高齢者と接触のある各種事業者の方々に、日常の事業活動の中で支援が必要な高齢者の発見を依頼し、発見された高齢者を地域の関連機関が連携・協力して支援を行っていく。	協力事業者へステッカーなどを配布し、事業周知を図ることにより、問合せ等も増え、着実に区内に事業が周知されつつある。また行政、関係団体、協力事業者が一同に会した情報交換会を開催し、事業運営における活発な意見交換を行い、次年度以降の活動にフィードバックをしていく。	高齢者支援課、麻生区見守りネット協議会	行政単独ではカバーしきれない高齢者への支援の担い手を、民間事業者が参入することにより、広く効果的に支援の手をさしのべることができるようになり、多くの高齢者が安全で安心な地域生活を送るための重要な役割となっている。	現在、区内協力事業者は5事業者となっているが、次年度以降も事業者を増やしていくことにより、地域での高齢者の見守りネットワークを広げ、一人でも多くの高齢者が安全で安心な生活が送れるように事業展開を行っていく。

3 人を育て心を育むまちづくり事業

1	継続	子育て支援・企画事業	2,248,000	1,586,208(合計)	こども支援室	以下のとおり	以下のとおり	—	以下のとおり	以下のとおり
1-1	継続	こども相談窓口運営維持管理事業		337,483	こども支援室	(目的) 子どもに関わる様々な相談の問題解決のため、関係機関や庁内の関係部署との連携や調整を行う。また、相談対応の研修を実施しスキルアップをすることで、区民の相談により的確に対応できるようにする。 (内容) 子どもに関わる相談に子ども教育相談員、家庭相談員、保健師が対応する。乳幼児の相談を保健師、家庭相談員が受け、庁内の関係部署及び児童相談所・療育センター等の関係機関と連携し対応する。小・中・高等学校の子ども相談は子ども教育相談員、保健師が対応し、必要に応じて庁内の関係部署、教育委員会、小・中学校、児童相談所等関係機関とケースカンファレンスを実施し、問題解決に向けて連携や調整を行う。多頻度相談保護者や発達障害への対応の研修を実施し、問題の理解や対応を学び相談に活かしていく。	こども支援室が核となって子どもを取り巻くさまざまな機関とつながり、かつ継続して状況を把握しながら関係機関を調整することによって、一貫した支援を行うことが出来た。	こども支援室	相談に対して各関係機関と連携してケースカンファレンスを行う事で的確な分析をし、それぞれの機関の役割や問題点の共有ができた。また、問題の解決に向けてのネットワークが強化されてきた。	虐待や支援が必要な困難事例の子ども相談に対し、関係機関との連携や調整をさらに強化していく。
1-2	継続	麻生区子ども関連ネットワーク会議		204,500	こども支援室	(目的) 麻生区における子どもに関連する機関、団体やグループの連携を図るとともに、子育てや子どもの健全育成を地域全体で支援する。 (内容) 子どもに関連する機関等との情報交換、ネットワーク化に向けての協議を行う。	各機関、団体等の現状や課題を共有できた。その中で子どもたちが地域の中で人との関わりを持ちながら安全に遊べるように、小学校1年生及び転入生を対象に「みんなのちず」を配布した。また、研修企画部会では関係機関、団体を対象にシンポジウムを実施し、ネットワークの推進を図った。さらに、情報部会が麻生区子育てガイドブック「きゅっとハグあさお」の改訂に向けて、検討を行い来年度の改訂版発行に向けてつなげた。	こども支援室	ネットワークを構築していくためには、現状と課題を共有して課題解決に向けての方向性を示し、実践していくための活動が必要である。みんなのちず部会・研修企画部会・情報部会を通して、ネットワークを強化するため地域に発信できる活動ができた。	地域の課題について会議を通して把握し、シンポジウム等を通して関係機関や団体との連携を推進できた。今後も引き続き部会を設置して課題に向けて協議し、地域全体での子育て支援につなげていく。
1-3	継続	麻生区子育て関連情報誌作成事業		145,950	こども支援室	(目的) 育児の相談先や各施設で行っている子育て支援など多様な情報を一元的に提供し、子育て中の区民にとっての利便性を図るとともに、育児の孤立化や育児不安の軽減を図る。 (内容) 区内の子育て支援関係機関、自主サークル・グループの場所や活動内容を地図に載せ、最新情報を提供する。また麻生区の子ども・子育てに関連する機関及び団体等で構成される「子ども関連ネットワーク会議」情報部会において、情報誌の内容等を検討し、作成する。	広報や口コミで情報誌を知り窓口に来所する人も多く、ニーズは高い。妊産婦からは「今必要な情報が掲載されていてよかった。すみからすみまで読んだ。」という感想や、子育てに関わる団体等からも「自分たちが知らなかった情報まで載っていて、大変になった。」という意見もあった。	こども支援室 マイタウンにじゅういち(株)	子育て中の人や子育ての支援者を中心とした情報部会で情報誌を作成したことで、情報が必要とする人たちの声を生かすことができた。それぞれが知らなかった情報も、情報誌作成を通して共有することができた。	子ども、子育て支援の拠点としての役割のなかで情報発信・提供は重要であり、そのために継続的な周知が必要である。情報誌については次年度早急に準備を進め、必要な方の手元に早く渡るようにする。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業目的及び内容	事業報告	実施主体・委託先	総合評価	今後の方向性
1-4	継続	麻生区子育て人材バンク事業		840,000	こども支援室	(目的) 区内の子育て支援に関する資格や特技を有する人材を活用し、区内の子育てグループ等の支援を行い、地域の子育てを地域全体で支援する。 (内容) 子育ての支援を行う者(子育てボランティア)と支援を受ける者(子育てグループ)が子育て人材バンクに登録し、子育てグループから派遣の依頼を受けて、子育て人材バンク事務局が案件に合致する子育てボランティアを派遣し、子育てグループの活動の支援を行う。	ボランティア22人、利用グループ34団体が登録している。派遣回数は110回、派遣人数は200人。ボランティアの質的向上を目指し、ボランティアを対象とした研修会を実施した。また、利用グループからは、ニーズにあった人材の派遣がされたことで活動の充実につながっているとの意見があった。	こども支援室 特定非営利活動法人川崎児童健全育成会コッコロ	本事業が認知されつつあり、ボランティアの登録者数、利用する子育てグループの登録者数が増加し、年々事業が発展している。利用者からも大変好評を得ており、麻生区の地域の子育て支援活動において重要な役割を果たしている。	本事業を区の地域の子育て支援の場としてさらに発展させていくためにも、ボランティアの登録数を充実させること、利用者のニーズを把握することは重要であり、委託先との調整を十分にを行い、子育て支援の強化につなげていく。
1-5	継続	学童期の遊び・学びのためのマップ作成		58,275	こども支援室	(目的) 麻生区内の学童期の子どもたちが、家族や地域との関わりを持つことによって健全に育つよう、地域の情報を子ども自身が書き込み作成できるようなマップを作成し、コミュニケーションツールとしての活用を図る。平成22年度は小学1年生と転入者の分の印刷を行う。 (内容) マップの表側は、麻生区の地図に公共機関、施設、公園、バス路線などを掲載し、自分たちで自由に書き込める白地図にする。掲載範囲は小学校区(16学区)とする。裏側は遊ぶときの安全への配慮、ルールをメッセージの形で掲載する。また、A3版の両面カラーで作成する。	各学校の授業やPTA活動でも活用された。また区民まつりなど人の多く集まる場所でも啓発することが出来た。	こども支援室	活用を勧める側である学校やPTAIに認知度が上がった。	活用状況の検証等を行い、区民にとってさらに活用しやすいものとして継続していく。
2	継続	こども関連大学連携事業	1,724,000	1,649,503 (合計)	こども支援室	以下のとおり	以下のとおり	—	以下のとおり	以下のとおり
2-1	継続	麻生区マタニティコンサート事業		313,200	こども支援室	(目的) 出産を控えた妊婦のリラゼーションを図ることを目的として、昭和音楽大学の卒業生を中心とした演奏家のコンサート及び保健福祉センターの助産師による妊娠中の生活のワンポイントアドバイス、妊娠中からの子育て支援を行う。 (内容) 昭和音楽大学の卒業生を中心とした演奏家に依頼してコンサートを実施する。また、併せて助産師によるワンポイントアドバイス、麻生図書館による絵本の紹介、読み聞かせも実施する。	8月9日82人、12月10日は80人の参加があった。プロの生の演奏によりリラックスし、ワンポイントアドバイスや読み聞かせで出産後の子育てのイメージを抱くことができたという妊婦が多く、好評であった。	こども支援室 (株)プレルーディオ	妊娠中や子育て中は手軽に参加できるコンサートが身近にないため好評であった。また、大学、市民館、図書館、ボランティア等と連携してそれぞれの専門性を生かした事業であるため、妊娠時期からの子育て支援を行う上で効果的・効率的な事業である。	音楽を通しての子育て支援は継続していきたい。
2-2	継続	麻生区子どもと一緒にのコンサート事業		434,443	こども支援室	(目的) 未就学児がコンサートの対象から除かれることが多いため、就学前の親子が身近な場所で気軽にコンサートに行くことができ、良質な音楽に触れ、楽しみ、リラックスした機会を持つことで、子どもの健全な発達、発育を図る。 (内容) 保護者からの要望が高い未就学児を対象としたコンサートを実施する。演奏にあたっては、昭和音楽大学の卒業生を中心とした演奏家に依頼し、昭和音楽大学北校ユリホールにて実施する。	9月20日は350名、2月13日は363名が参加した。親子がリラックスしながら一緒に出演者の歌や音楽に触れ、手遊びをすることで、子どもの健全な発達、発育につながることができた。	こども支援室 (株)プレルーディオ	応募者数から未就学児対象のコンサートに関する区民の関心が高いことがわかる。区民のニーズに対して地域資源である昭和音楽大学と連携して事業を実施することは非常に効果的である。	今後は昭和音楽大学に加え、様々な地域の資源を活用して内容の充実を検討したい。また、保護者からの要望が高いため継続していく。
2-3	継続	小学校・昭和音楽大学交流コンサート事業		195,000	こども支援室	(目的) 昭和音楽大学の大学院生が区内の小中学校に出向き、コンサートや歌唱指導、楽器指導を行うことで、小学生に良質な音楽に触れる機会を提供する。さらに、大学生や大学院生と音楽を通じた交流を行うことで、次世代の育成を図り、地域社会づくりに資する。 (内容) 区内の小中学校(8校)で大学生等による楽器演奏や歌唱指導等を実施する。	大学生等による生演奏や歌を聞き、大学生等と児童が触れ合うことで、学生・児童の相互に教育的効果があった。また、麻生区が芸術のまちとして地域づくりを展開する周知することができた。	こども支援室	麻生区の芸術のまちとしての地域づくりと地域の子どもの健全育成のために、良質な音楽に触れることは有効である。大学生や大学院生と音楽を通じた交流を行うことで、次世代の育成を図り、地域社会づくりに資する上で重要な事業であるといえる。	次年度も交流コンサートに区民の参加を促し、鑑賞や交流することでさらに地域に根ざした事業に発展するように検討する。
2-4	継続	地域にある鶴見川流域を活かした子育て支援事業		706,860	こども支援室	(目的) 小学校の総合学習で児童が実際に川に入り魚を取るなどの流域学習を体験することで、生物の生態学習や川の流れの学習、川の防災機能の学習などにつなげる。自然や防災などの避けては通れない問題に目を向けるとともに、次世代の育成を目指す。また、夏休みファミリー体験学習では休日に関わることにより父親の子育てを促す。 (内容) 和光大学との大学連携や地域にある鶴見川、NPO法人等の地域資源を活かした地域連携事業として、流域学習を実施する。	事業者の危機管理により事故や怪我もなく、無事に事業を行うことができた。また、夏休みファミリー体験学習では父親の参加もあり、父親の子育てを促すことができた。	こども支援室 特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワークキング	小学校の総合学習としての流域学習、夏休みのファミリー体験学習とともに、生物の生態学習や川の流れの学習、川の防災機能の学習等を通じて次世代育成・父親の子育てを促すことができ、有効な事業であると評価できる。	鶴見川やその他の地域資源を活用した事業を展開していく。
3	新規	若いときこそ健康貯金推進事業	792,000	426,303	地域保健福祉課	食習慣の基礎づくりの時期にある中学生に対し、この時期に「バランスの良い食生活」など食教育を行うことは重要である。事業実施にあたり、川崎市で養成している「麻生区食生活改善推進員連絡協議会」と協働し、既存事業では普及啓発が難しい区内8箇所の中学校に通う生徒を対象に、食生活を通じて、健康な生活を営むための知識と技術の普及を行う。①バランスの良い食生活をテーマとした冊子の作成、②麻生区内中学校の家庭科の授業等での調理実習や冊子の配布等による技術および知識の普及	対象者に配付するための「バランスの良い食生活」をテーマとした冊子の作成はできたが、調理実習等の実施をすることができなかった。	麻生区食生活改善推進員連絡協議会	授業時間数に限りがある中で、学校に向いて授業時間内で調理実習を実施するには、学校側の事業の趣旨、必要性等の理解が必要である。また、健康や食生活については、技術・家庭科の「家庭分野」や保健体育の「保健分野」等様々な教科で触れているため、本事業の実施にあたっては校長、各教科の担当教諭や学年担当教諭等と連絡調整等、連携が必要である。	初年度の22年度は冊子の作成のみで、実際にその冊子をもとに調理実習等を実施することができなかった。23年度は、作成した冊子を活用し調理実習等を実施するために、学校への事業の詳細やPR方法を検討する必要がある。

4 環境を守り自然と調和したまちづくり事業

1	継続	麻生区自然エネルギー活用促進事業	555,000	389,477	地域振興課	区役所屋上等に設置された太陽光発電設備を活用し、イベントや講演会等を開催するなど自然エネルギーの活用、環境問題の啓発活動を実施する。	イベントや講演会等に多くの区民が参加しており、大きな成果が上がっている。	麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会	麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会は、区民主体の実行委員会として積極的な活動展開があり、適性に事業を実施できた。	本事業は平成23年度から「エコのまち麻生推進事業」に統合されたうえで継続実施する。引き続き団体の活動がより活性化するように支援するとともに、環境局「川崎市地球温暖化防止活動推進センター」との連携を視野に事業を推進する。
2	継続	体験農業	1,000,000	0	地域振興課	米づくりの体験を通じて親子の絆を深めるとともに、日本人の主食であり、普段何気なく口にしている米について、食の大切さ、農業の尊厳を実感し、併せて麻生区の地域特性である都市と農業の共生について考える機会を提供する。	代替地の選定も含めて、事業内容、方法、実施主体について検討を行ったが、結論には達せず、継続的に検討を行っていく。	体験農業実行委員会	代替地の選定も含めて、事業内容、方法、実施主体について、継続して検討を行っていく必要があり、今年度を目途に事業継続の可否の結論を出す。	平成8年から実施してきた当事業は、一定程度その目的を達成することができた。今後、関係団体・民間が実施主体となり、実施していくことができるよう、平成23年度を目途として、代替地、事業内容、方法等について民間団体等と調整を行っていく。
3	継続	あさお花いっぱい推進事業	900,000	582,570	地域振興課	区内の美化環境の向上、地域コミュニティの向上を目的とし、川崎市美化運動実施麻生支部との協働により、公共的空間にある花壇を自主的かつ継続的に管理している団体へ花苗、培養土、プランターを提供する。	自主的かつ継続的に花壇を管理している団体へ花苗等を提供することにより、団体の活動の活性化に寄与することができた。	川崎市美化運動実施麻生支部	平成22年度は事業として3年目となり、これまでの課題であった区民への制度の広報・周知という課題をある程度解消することができた。また申請のあった団体の活動活性化に寄与することができたという点で成果はあった。	当事業は、市の緑化推進事業を補完する事業であり、他の事業との整合性や効果、活動団体のニーズ等を再度検討する必要がある。一方で、制度の利用者は少しずつではあるが増えているため、内容の調整を行いながら、事業としては継続していく。
4	継続	麻生里地・里山保全推進事業	1,180,000	1,180,000	生涯学習支援課	麻生区に残る里地・里山の魅力を次世代に継承するため、「里地・里山カフェ塾」(全14回)、「里山こども交流会」、「わたしのまちなかの風景写真展」、「麻生のたんぼに親しむ事業」、「里山フォーラムin麻生」の開催、里地・里山だよりの発行(年2回)を実施する。	麻生区の身近な自然に関わる歴史や現状について学ぶ機会を、多様な手法を用いて提供することにより、幅広い区民の関心と参加を得ることができた。特に若い世代の参加により、次世代への継承という点で成果が見られた。	里山フォーラムin麻生世話人会	麻生区内の自然環境保全に関係する活動を行っている団体・個人が集う機会を数多く提供しており、本事業の実施により、麻生区内の環境保全に対する市民意識の向上に繋がった。また、関係団体が連携する原動力となる有効な中間支援組織となることができた。	地域の里地・里山保全推進に向け、多様な手法により、広く一般市民の環境問題に関する意識を高めてきた。事業を継続することにより地域の人材育成に寄与することができた。今後とも成果と課題を分析しながら、楽しく学習し、活動へつなげる事業を展開する。
5	継続	ヤマユリ植栽普及促進事業	390,000	378,986	地域振興課	区内で自然環境再生への問題意識が高まっている中、地域の環境美化及び地域コミュニティを推進するために、地域の愛護会等と連携し、消えつつあるヤマユリの植栽活動の促進や支援を行い、植栽のノウハウの蓄積、普及を推進する。	ヤマユリ鉢植え講習会を2回開催した。また、植栽地での管理活動を地域との連携を図りながら進めている。	麻生ヤマユリ植栽普及会	かつて麻生区一帯に咲いていたと言われるヤマユリを再生することで、魅力ある区づくりに寄与できるとともに、市民活動団体が主体となり活動を行うことで、シニア活動支援にもなっている。	貴重となったヤマユリの再生を通じて、地域のコミュニティづくりの支援を行うとともに、講習会や広報を通じて関心を喚起し参加者の拡大を図る。
6	新規	エコのまち麻生推進事業	5,346,000	2,549,504	企画課	第2期麻生区区民会議で取り組まれてきた「エコのまち麻生」を継承し、区民一人一人が取り組める身近なエコ活動を啓発することを目的に、区民や市民活動団体等との協働による「エコのまち麻生」を推進する事業を実施する。平成22年度の具体的な内容としては、大型リチウムイオン蓄電池の購入とエコ関連行事への活用、百葉箱の設置やエコ活動を取り扱ったパンフレットの作成、ゴーヤーによる「緑のカーテン」の実施があげられる。	事業執行方法の見直しによるものほかは、当初の予定どおり達成することができた。	企画課、(株)ヨシダプリント	区民会議の取組を継承した経緯、地球温暖化等の環境問題が市民生活においても無視できない現状などを背景に、区民と区役所がともにエコの意識高揚を図る事業が平成22年度も概ね達成されたことは評価できる。また、大型リチウムイオン蓄電池の活用や百葉箱、啓発パンフレットの活用により、今後のエコ活動をさらに盛り上げていく材料が増えたことも意義深いものと考えている。	緑が多く、もともと環境への関心が高い地域性もあり、区民や市民活動団体との協働によるエコの推進は順調に進んでいる。ただし、今後活動も継続発展させていくためには、市(区)事業の整理・見直しとともに、更なる区民への情報発信や意識共有のためのイベント開催、市民活動との連携などが必要と考えられる。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業目的及び内容	事業報告	実施主体・委託先	総合評価	今後の方向性
5 個性と魅力が輝くまちづくり事業										
1	継続	麻生音楽祭	3,656,000	3,591,343	地域振興課	6～7月に音楽グループによるコンサートやつどいを開催し、発表の機会を提供するとともに、区民や音楽家の交流(ネットワークづくり)と芸術文化の向上を図る。(麻生音楽祭)スクールコンサート、コーラスのつどい、アンサンブルのつどい、ファミリーコンサート、かなでようあさおの響き(計5日開催)。その他にバックステージ講習会、協賛イベントの開催	区民主体の運営体制であり、区民及び団体相互の協力・連携体制がより深まっている。	麻生音楽祭実行委員会	「芸術文化のまちづくり」を推進するために核となる事業として、地域に根ざした活動をしており、麻生区の魅力を内外に発信することができる事業である。	区民主体の運営体制が軌道に乗り、滞りなく事業を遂行できた。区制30周年に向けて、今後も事業を実施しながら現状の把握と課題を解決し、改善につなげていく。
2	継続	あさお観光資源の魅力紹介事業	978,000	957,025	地域振興課	麻生区の魅力を区内外に向けて発信するため、四季折々の麻生区の今昔を写した観光写真コンクールを企画、実施する。	観光写真コンクールを実施することで、区の魅力を内外に発信するという目的を達成できた。	麻生観光協会	事業を通じて区民に対し広く情報を発信するとともに、委託先である観光協会の強化育成の観点からも有益な事業である。	複数の所管課で行っている類似事業の整理をし、統合などを検討していく。
3	継続	あさおスポーツフェスティバル	800,000	713,388	地域振興課	地域で区民が自主的に運営するスポーツ大会を支援するとともに、区民の健康と体力の向上、活力と躍動あるまちづくりに資することを目的とする。	地域に根づいたスポーツフェスティバルとして評価されており、地域でのスポーツの場づくり、交流の場として効果をあげている。	あさおスポーツフェスティバル実行委員会	小学生から高齢者の大会まで幅広い年齢層のスポーツ大会を支援し、多くの区民の参加を得ている。	当該事業は終了し、平成23年度に新設される「スポーツのまち麻生推進事業」において継続していく。引き続き個々の大会の実情に合わせた支援を実施し、より多くの区民の参加が得られるように工夫していく必要がある。
4	継続	KAWASAKILんゆり映画祭野外上映会	900,000	900,000	地域振興課	市民・子ども局市民文化室が実施する「しんゆり映画祭」の周知と、「しんゆり・芸術のまち」の推進の一環として野外上映会を開催する。	毎年家族での参加が多く充実した事業であるが、「しんゆり映画祭」本祭前の事業であることから、本事業の効果的な広報の方法について検討が必要である。	KAWASAKILんゆり映画祭実行委員会	麻生区の魅力である「しんゆり・芸術のまち」を内外に発信する事業として効果的である。	地域の夏のイベントとして定着し、多くの区民が参加して親子のふれあいの場にもなっている。親子が楽しめる作品の上映と集客の向上を目指すとともに、区の魅力を内外に発信していく。
5	継続	ふるさとあさお再発見事業	320,000	311,264	地域振興課	区民から愛され、親しまれる「ふるさと」づくりを目指し、伝統・伝承文化などを区民に広く紹介することで、地域に伝わる財産を風化させずに後世に継承していく。また、区民と協働し、食育文化を通じて麻生区に伝わる文化を再現し、「ふるさとあさお」を提供する。	区の食育文化として七草粥を800食調理し、来場者に提供した。伝統・伝承文化などを区民に広く紹介し、麻生区に伝わる文化を再現し、「ふるさとあさお」を提供できた。	麻生区文化協会	伝統・伝承文化などを区民に広く紹介することで、これらの地域に伝わる財産を風化させず、後世に継承していくという事業目的が達成できている。	地域に伝わる財産を風化させず、後世に継承していくという観点から継続的な事業展開が必要である。
6	継続	区政・地域情報提供事業	881,000	613,200(合計)	総務課 企画課	以下のとおり	以下のとおり	—	以下のとおり	以下のとおり
6-1	継続	麻生区統計白書作成		362,250	総務課	平成16年度からの継続事業として、各種統計データの収集・分析から明らかにした麻生区特性を冊子にまとめ、転入者や区内の学校へ幅広く配布している。平成22年度事業としては、前年度に全面改訂した「知れば知るほど あさお元気」の内容を一部改訂し、10,000部追加作成した。	21年度作成分については9,000部を配布し、22年度には一部改訂版10,000部を作成し、現在配布している。	総務課、(株)横浜エヌケービー	高度情報化社会において区民への情報提供及びイメージアップに対して、少なからず貢献できる資料といえる。転入率の高い麻生区においては特にその意味合いは大きく、今後もその位置付けは変わらないといえる。	19年度、21年度と2年おきに全面改訂を行ってきた。23年度は全面改訂のタイミングではあるが、平成22年国勢調査の結果反映が間に合わない為、可能な限りデータを更新する形で一部改訂を行い、全面改訂は24年度に行う予定である。
6-2	継続	麻生区役所ホームページ運用研修		73,500	企画課	麻生区ホームページの更新作業に当たり、区職員のホームページ作成能力の向上を図るための研修を実施する。	ホームページ作成研修(委託業者によるホームページビルダー研修及び企画課職員によるCMS研修)を実施し、区職員のホームページ作成能力の向上を図ることができた。	企画課、富士通エフ・オー・エム(株)神奈川支店横浜営業所	職員の能力向上により、区ホームページの迅速な更新や充実を図ることができているため、引き続き必要な事業である。	情報の発信源としてホームページの役割は高まっており、本事業を通じて職員の能力向上を図り、区ホームページの迅速な更新及び充実に取り組む必要があることから、今後も継続する。
6-3	継続	麻生区役所ホームページ更新事業		98,700	企画課	麻生区ホームページの更新作業に当たり、専門的な技術が必要なコンテンツ等の作成、組織再編に伴うフロア図の変更や区役所周辺地図の更新を行い、ホームページの充実を図る	トップページに配置するバナーの作成や区役所庁舎フロア図の更新、区役所周辺地図の更新などを迅速に行うことができた。	(株)マイタウンにじゅういち	区ホームページの更新作業については、区民ニーズの多様化から様々なコンテンツを作成する必要があり、専門的な技術を有する事業者の協力が不可欠であることから、今後も継続していく。	区役所の情報を迅速かつ多くの人に広報する手段として、ホームページは重要な位置づけにある。今後も掲載情報を充実させるとともに、高齢者や障害者等にも配慮したページを作成していく必要があることから、現状どおり継続していく。
6-4	新規	麻生区役所広報紙作成研修事業		78,750	企画課	麻生区役所から発信する広報紙(チラシや冊子など)が区民にとって見やすくわかりやすいものとなり、より効果的な広報を目指すべく、区職員を対象に広報紙作成のスキルを学ぶ研修を実施する。	広報紙作成研修を実施し、区職員のチラシ等作成時における創意工夫がさっそく反映されるなど、一定の成果を得ることができた。また、実際に区役所内の各所管課ですべてに作成・配布しているものを教材(題材)に取り上げたことで、職員もより身近に取り組むことができた。	企画課、(株)マイタウンにじゅういち	すでに平成22年度中に実施のイベント広報チラシへ職員の工夫が反映されており、一定の成果を得ている。また、個々の区職員の広報力向上は、区役所全体の広報力向上につながるから大変意義深い。	区役所全体の広報力向上は、区民への情報提供をする上で必要なことであり、平成22年度までの区の取り組みでもある程度達成されてきているが、その広報力は高い水準で維持していかなければならない。今後は、研修内容等の細部を委ねつつ、本事業を通じて常に職員のスキル向上とスキル維持を図る基本方針は変えず、事業を継続していく。
7	継続	イメージアップ推進事業	2,214,000	1,532,555(合計)	企画課 地域振興課	以下のとおり	以下のとおり	—	以下のとおり	以下のとおり
7-1	新規	区制30周年記念事業の検討		0	企画課	平成24年7月に麻生区が区制30周年を迎えることを契機として、区民の区に対する誇りや愛着を高めることを目的に、区民主体の実行委員会を立ち上げ、区制30周年記念事業や区の花・木の制定等の検討を行う。	区制30周年記念事業や区の花・木の制定等の検討を行うため、町会や地域団体等を委員とする世話人会を立ち上げて会合を開催した。平成23年3月にさらに多くの地域団体等を加えた実行委員会を立ち上げる予定であったが、震災の影響により延期となった。	麻生区役所、麻生区町会連合会、麻生区文化協会、麻生区商店街連合会ほか	世話人会において記念事業等の事前検討を行った。また、実行委員会の立ち上げは延期となったが、各委員から参加の了承を得ており、準備はできている状況であることから、当初の目標を概ね達成することができた。	実行委員会を立ち上げ、具体的な記念事業等の検討を進めていく。
7-2	継続	懸垂幕作成業務		81,900	地域振興課	麻生区のイメージアップを図るため、「アルテリッカ・しんゆり」の開催やスポーツ・文化活動などの全国大会出場等を応援する懸垂幕を区役所壁面に掲出し、広く地域住民にPRする。	①桐光学園サッカー部全国大会出場応援の懸垂幕 ②「アルテリッカ・しんゆり」開催の懸垂幕	地域振興課、(有)角忠旗店	桐光学園サッカー部全国大会出場と「アルテリッカ・しんゆり」の開催をPRする懸垂幕を掲出した。今後もスポーツ・文化活動において、全国の大会等に出席した学校について懸垂幕の掲出を行い、広く地域住民に広報していく。	桐光学園サッカー部全国大会出場応援と、「アルテリッカ・しんゆり」の開催をPRする懸垂幕を掲出した。今後もスポーツ・文化活動において、全国の大会等に出席した学校について懸垂幕の掲出を行い、広く地域住民に広報していく。
7-3	継続	新百合ヶ丘駅周辺の装飾事業		200,655	企画課	ゴールデンウィークを中心に開催される「川崎・しんゆり芸術祭2010(アルテリッカしんゆり)」の開催に併せ、来街者を歓迎し「しんゆり芸術のまち」をPRする目的で、区内にあるこども文化センターと協働して小中学生の絵画展を実施した。	多くの来街者が足をとめて絵画を鑑賞するなどしていたことから、当初目標は達成できたと考え。	企画課、麻生区区民会議、ラインエ芸	当初目標は達成できたが、区民会議のモデル事業の位置付けのため継続性が困難な状況である。この取組みを引き継いでくれる新たな担い手を探しつつ、実施方法については再検討していく必要があると考えられる。	モデル事業としては一定の成果を得ることができたが、継続性を担保するために、新たな担い手が必要となってくる。現行方法が効率性などの面で課題もあったことから、実施可能な内容の変更も考慮しながら再検討していく必要がある。
7-4	継続	新百合ヶ丘駅周辺イルミネーションイベント支援事業		1,250,000	企画課	「しんゆり」をさらに魅力ある街とするための取組として、公民協働によるイルミネーションイベントの開催が企画され、実行委員会が組織された。多数の地域企業、商店街、団体等の協賛や協力を得て実施されており、このイベントを通じて築かれる地域の良好なネットワークは、「芸術を通じたまちづくり」や「活力あるまちづくり」の推進に寄与するものであるため、区も共催することとして応分の負担をする。	イルミネーションの点灯期間中、オープニングイベントや芸術関連イベント等が多く開催され、公民協働による「芸術を通じたまちづくり」や「活力あるまちづくり」の推進に一定の効果があった。	Kirara@アートしんゆり2010実行委員会、オリーブ祭実行委員会	地域参加・地域主体によるイベントが多く開催され、公民協働による「芸術を通じたまちづくり」や「活力あるまちづくり」の推進に一定の効果があった。また、この取組を通じて地域の良好な関係も構築されている。	地域参加・地域主体によるイベントや芸術関連、学生の企画によるイベント等を開催し、「芸術を通じたまちづくり」や「活力あるまちづくり」のより一層の推進を図っていく。
8	継続	地域資源を活用したまちづくり推進事業	6,180,000	3,736,500(合計)	企画課 地域振興課	以下のとおり	以下のとおり	—	以下のとおり	以下のとおり
8-1	継続	地域資源を活用した連携事業		129,635	企画課	麻生区の特徴である「農」、地域の資源である「4大学」や「日本映画学校」、「アートセンター」、「川崎フロンターレ」、「マイコンシティ」などと連携し、これらを活かした個性あるまちづくりに取り組む。	22年度は、JAセレス川崎農業共同組合及び麻生観光協会と連携して事業を行った。区民が広く参加することができるイベントを行ったことで、区のもつ特色と魅力をアピールすることができた。	J Aセレス川崎農業共同組合ほか	連携先の決定や事業内容の協議などに多大な労力を要するが、申し込みが多かったため抽選で参加者を決定した事業があるなど好評であり、成果を上げることができたといえる。	限られた地域資源の中で、新たな事業の企画、連携先を模索していく必要がある。また、区民ニーズや区役所の課題を反映させた事業を展開していく。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業目的及び内容	事業報告	実施主体・委託先	総合評価	今後の方向性
8-2	新規	スポーツ関連事業		3,606,865	地域振興課	①スポーツ広報紙の発行：区内のスポーツ情報や健康増進等に關連した広報紙を発行することにより、スポーツ活動等の普及・啓発を図り、スポーツを活用したまちづくりを推進する。②スポーツ資源調査：区内のスポーツ資源を調査し、スポーツを通じたまちづくりを推進するための基礎資料を得る。③川崎フロンターレ応援事業：川崎フロンターレを地域と一体となって応援することにより、地域住民の一体感の醸成と麻生区のイメージアップを図るとともにスポーツを活用したまちづくりを推進する。④青玄祭祭：地域住民と川崎フロンターレ選手との交流の場を設けることで、地域コミュニティの活性化や川崎フロンターレの知名度向上を図るとともに、スポーツを活用したまちづくりを推進する。⑤柿生駅情報掲示板：スポーツのまちづくりを進めるための広報手段として、区のスポーツゾーンと位置づけている柿生地区（柿生駅周辺）に情報発信掲示板を設置する。	⑤以外の事業は全て22年度からの新規事業である。①については1回（5000部）発行を行った。②については区内のスポーツ資源を網羅的に調査しており今後の区のスポーツ事業の基礎資料として大いに活用できると思われる。③④については応援ツアー1回、パブリックビューイング1回、少年サッカー大会への支援を実施するとともに、青玄祭祭を9月20日に開催し約2000人が参加するなど、川崎フロンターレ麻生アシストクラブと連携して取り組み、フロンターレの知名度向上やフロンターレを通じたスポーツのまちづくりに大きな成果を上げることが出来た。⑤は柿生駅北口に設置した。	①②川崎市体育協会、③川崎フロンターレ麻生アシストクラブ、④青玄祭実行委員会、⑤麻生区地域振興課	震災の影響で中止となった事業はあったが、それ以外については、全計画どおりに実施し、スポーツのまちあさおの推進を図ることができた。	本事業は平成23年度に新設される「スポーツのまち麻生推進事業」に移行し、引き続きスポーツのまちあさおの推進に向けて、より効果的・効率的な事業の進め方を検証しながら取り組んでいく。
9	継続	あさお芸術のまちコンサート事業	2,830,000	1,621,301	地域振興課	区民が気軽に音楽を楽しむことができる機会を設けることで、区のイメージアップを図るとともに、音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりを促進する。①定例コンサート：年6回区内ホール等を使用して開催（ユニヴァーサルコンサート、新春コンサート含む）、②シネマ・サロンコンサート：年2回、川崎市アートセンターとの連携企画、③トワイライトミュージック：夕方随時、区役所2階ロビーで開催、④ネットワーク登録者派遣事業：年6回実施（川崎授産学園、2にん3きゃくほか）	地域に根ざした活動として定着し、区民に大変親しまれている。一回のコンサートにつき平均して200人強の来場者（来庁者）があるとともに、毎回来場する根強いファンもあり、区民に期待されるコンサートとなっている。1月7日新春コンサートでは、麻生古風七草粥の会との協力により750人を越える来場者を得た。開催回数を80回以上重ねてきたことにより、応募・出演したことのある音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりにも取り組み、自主的な拡充を図っている。ネットワークには約80組が登録（毎年更新）。	あさお芸術のまちコンサート実行委員会	定例コンサート以外にも、区役所で夕方に開催するトワイライトミュージックやネットワーク登録者の活用事業も取り組み始め、様々な形式により、いつでもどこでも誰でも音楽を楽しめる機会の提供に努めている。区役所を拠点とした形式から展開を図り、音楽関連施設を利用することにより、事業を拡充していく方向へと進んでいる。	22年度より「ユニヴァーサルコンサート（バリアフリーコンサート）」と「音楽家のネットワーク登録者派遣事業」の新規事業を実施し、軌道に乗せることができた。今後も他事業との協力・連携を一層図り効果的で効果的な情報発信をしていく。地域の音楽家・音楽愛好家をとともにより良いコンサートづくりに努める。

6 参加と協働による市民自治のまちづくり事業

1	継続	麻生区まちづくり推進事業	4,410,000	4,137,234	地域振興課	「麻生まちづくり市民の会」は平成21年度から第3期の活動が始まった。麻生区唯一の市民による中間支援組織として発足した平成15年当時とは市民活動支援を取り巻く環境が大きく変わったことから、「人、組織、地域のネットワークづくり」をテーマとして地域の様々な団体のネットワークづくりを構築しながら区の課題解決に市民主体で取り組んでいく。	「エコプロジェクト」においては環境家計簿を通じて地域のつながりを作り、「達人プロジェクト」は講座を通じて市民活動の活性化を、そして「広報プロジェクト」は広報紙を通じて麻生の魅力を発信し、ネットワークを拡大することができた。	麻生まちづくり市民の会	今年度も具体的な企画活動を活発に行った。また、麻生市民交流館やまゆりとの協働体制の枠組みができたことは評価できる。	次年度は第3期の最終年を迎える。事業終了に向けて課題整理を行い、事業の方向づけを明確にする必要がある。
2	継続	麻生区市民活動支援施設利用促進事業	1,641,000	1,565,280	地域振興課	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」において、市民活動相談窓口の運営や情報提供、市民活動団体のネットワークづくりなど市民活動支援全般に関する業務を行う。また、川崎市自治基本条例、区行政改革担当の実行計画書等に基づき、区民が自主的に行う社会貢献活動を支援し、地域での区民の手によるまちづくり活動の推進を目的として、施設に印刷機やパソコン等の機器を整備する。	利用登録団体は順調に増加しており、会議室も80%を越える高い稼働率を示した。また、各種協働推進事業においても多数の参加があり、リニューアルした「やまゆりニュース」の発行など広報にも力を入れた。さらに、市民活動相談窓口業務においては麻生まちづくり市民の会と連携するなど、市民活動支援施設として一定の成果をあげることができた。	地域振興課、NPO法人あさお市民活動サポートセンター	具体的な発展があり、事業全体としての成果は評価できる。	次年度についても、引き続き地域活動への参加促進のための情報提供、市民活動団体のネットワーク構築など市民活動支援全般に関する業務を行う。
3	継続	外国人市民地域活動参加推進事業	677,000	258,207	地域振興課	多様な外国人市民が積極的、主体的に地域のまちづくりに参加し、区政に意見を反映できるよう課題の整理やその解決手法を検討し実践活動に取り組んでいく。①外国籍等のことも学習支援事業：外国籍及び外国につながる児童・生徒たちの学習を地域で支援する。	学校における支援9校12名のうち、4校5名の児童・生徒が派遣の成果などにより支援終了した。	あさお多文化サポートネットひまわり	一定の成果は得られたものの、他団体への広がりや外国人市民が積極的、主体的に地域のまちづくりに参加していく仕組みづくりについては今後の課題である。	円滑な事業運営のみならず運営団体の育成を視野に、関係機関との連携を進める。
4	継続	区役所窓口等サービス充実改善事業	1,248,000	1,855,233(合計)	区民課、保健福祉サービス課、保険年金課	以下のとおり	以下のとおり	—	以下のとおり	以下のとおり
4-1	継続	区民課窓口案内業務		584,953	区民課	窓口が大変混雑する3月から5月の連休明けにかけて「窓口案内係」を2名配置し、届出に必要な書類、交付申請の記載方法等の説明を行うことで、手続きをスムーズに案内するとともに、迅速な事務処理と待ち時間の短縮を図る。	窓口案内係が効率的に窓口の振り分け誘導を行い、迅速な対応と各種届出書の記載方法を説明することで、来庁者を長時間待たせることなく手続きがスムーズに進み、受付窓口を充実させることができた。また、任用形態を委託から臨時職員に見直すことで経費削減に繋がった。	区民課	窓口の混雑解消、待ち時間の短縮は市民サービスの向上とイメージアップに直結する事業である。本事業によって、その目的に対する効果が上がっている。	平成23年度から総合企画局により全市的に配置することになったため、区としての本事業は終了する。今後も来庁者に適切な「窓口案内」を行い、受付対応業務の振り分けを行うことで、混雑解消と待ち時間の短縮を図る。
4-2	新規	保健福祉サービス課窓口案内業務		652,880	保健福祉サービス課	庁舎レイアウト上、保健福祉センター2階通路は区役所正面玄関への通路となっているものの、通路幅が狭いため、窓口繁忙期には区役所来庁者は通行しづらく、保健福祉サービス課利用者には待合スペース不足等の問題がある。そのため、窓口繁忙期に案内係として臨時任用職員を窓口配置し、混雑解消と待ち時間の短縮を図る。	窓口案内係が来所者のスムーズな誘導をしたことで、職員が来所者の対応に集中できて、混雑解消と待ち時間短縮につながり、より満足度の高い窓口サービスを提供できた。	保健福祉サービス課	来所者の多い時期でも、整然とスピーディーなサービス提供を実施し、区役所窓口の充実を実現できた。	窓口案内係がスムーズな来所者の誘導をしたことで、窓口繁忙期の混雑解消と待ち時間短縮を実現できた。引き続き事業を継続し、さらに充実した窓口サービスを提供していく。
4-3	新規	保険年金課番号札発券機購入		617,400	保険年金課	平成23年度から組織改正により収納係が新設されるため、効率的な窓口業務を行うために番号札発券機を購入することで、来庁者の利便性及び窓口サービスの向上を図る。	効果的な、納付及び納付相談を実施でき、窓口サービスの向上になった。	保険年金課	国民健康保険料の収納対策事業において、債権確保や、窓口折衝の取組はさらに重要となっており、効率的、迅速的に窓口業務を推進するためにも成果は得られている。	当初の目的を達成したため終了する。
5	継続	麻生区地域コミュニティ活動支援事業	932,000	831,466	地域振興課	「麻生市民交流館やまゆり」を通じて、市民活動団体等による地域の新たなコミュニティづくりにつながる事業を支援し、地域におけるコミュニティづくりを活性化させていく。	区における市民活動支援の拠点として位置づけている「麻生市民交流館やまゆり」の中間支援機能の強化が図れた。また、新たな地域コミュニティづくりにつながる市民活動団体等の活動を支援し、一定の成果をあげることができた。	NPO法人あさお市民活動サポートセンター	市民活動団体等の活動を支援することで、地域におけるコミュニティづくりの活性化に寄与することができた。	来年度についても、市民の主体的な参画によって運営されている「麻生市民交流館やまゆり」に本事業の事務機能を置き、市民活動を推進していく。
6	継続	麻生まちづくり学校事業	300,000	255,982	地域振興課	麻生区のまちづくりを進めるために必要な知識の取得や情報の提供、視察調査を行い、地域主体のまちづくりを推進することを目的として講座の開催等を実施する。	ワークショップを行ったことにより、まちづくりの具体的な問題についての現状把握だけでなく、解決に向けての考え方を学ぶことができた。	麻生まちづくり学校運営委員会	地域主体のまちづくり推進の支援として一定の成果は評価できる。	来年度については、参加者の運営参加など学習だけで終わることのないような体制づくりを目指す。
7	継続	町内会事業提案制度	1,000,000	308,785	地域振興課	地域住民のつながり、地域の課題解決力の強化を目指し、地域社会の核としての機能を有する町内会・自治会が行う事業を募集し、区の事業として選定されたものについて、提案元の町内会・自治会に委託して実施する。	平成22年度は応募が1件あり、選考のうえ区の事業として認定した。委託先：三井細山自治会、認定事業：自治会農圃の管理・運営事業、事業内容：自治会内の遊休地を開墾し、自治会の共同農圃として運営して子どもたちの農業体験等を行った。	地域振興課、三井細山自治会	多岐にわたる地域課題に対し、町内会・自治体が主体となって取り組むことは、その過程自体が地域のつながりの強化に寄与するものである。各団体が事業を始める契機となる本事業は有益である。	複数の所管課で行っている類似事業の整理をし、平成24年度に統合をする予定。
8	継続	麻生区地域功労賞制度	114,000	21,298	地域振興課	麻生区の地域の活性化に貢献しているが、各種団体の表彰の対象にはならない個人（団体）を麻生区長名で表彰することで、区民の地域活動への関心を高める。	表彰という形で各種地域活動を行う人を取り上げることで、地域活動への関心を高めることができた。	地域振興課	町内会・自治会を推薦元とするため、各地域内における情報交換・交流促進の効果が得られる。また、区民の地域活動への関心を高める一手段として、一定の効果を上げている。	例年町会・自治会からの推薦をもらい地域活動の励みとして、一定の成果が得られている。今後も地域活動への関心を高める手段のひとつとして制度の質を損なうことのないよう継続する。

7 その他経費

1	継続	緊急対応事業	1,597,000	0	企画課	区内の緊急課題、区民要望等に対応した事業を実施する。	—	企画課	区内の緊急課題、区民要望等に対応するため、引き続き予算を確保する。	今後も区内の緊急課題、区民要望等に対応するための体制・予算等を確保していく。
2	継続	事務費等共通経費	1,115,000	709,667	企画課 地域振興課	協働推進事業の実施に必要な事務用品等の購入、郵便料、複写品費等	事業運営に際し、円滑な事務を推進することができた。	企画課 地域振興課	協働推進事業の事務処理を円滑に実施するために必要である。	協働推進事業を円滑に実施するために、今後も事務費の適切な執行に努め、更なる区民サービスの向上を図っていく。

合 計		55,000,000	40,669,458							
-----	--	------------	------------	--	--	--	--	--	--	--